

大阪市教育委員会「学校教育ＩＣＴ活用事業」モデル校（Ｈ25～26）

研究主題
ともに学び合い、学びを深める子どもの育成
ー ICTを活用して、教育の質を高めようー

8:20	8:30	8:45	9:00	9:30	9:45	10:30	10:45	11:30	11:45	12:30
	朝学習 (各教室)	移動	全体会 (講堂)	移動 休憩	ICT 公開授業 (各教室) 使用機器 電子黒板 iPad 等	移動 休憩	分科会 (各教室)	移動 休憩	全体会 (講堂)	
	受付		<ul style="list-style-type: none"> 本校の取組み 本日のICT 活用のポイント 				機器・アプリの 説明と体験 質疑応答		指導助言	

会場図

The diagram shows the layout of the venue, including the North Building (北館), West Building (西館), and South Building (南館). The main entrance (正門) is located between the West and South Buildings. The lecture hall (講堂) is located in the North Building. Various rooms and their locations are indicated by callouts.

1 階 全体会会場

3 階

6-2 朝学習
6-1 公開授業
6-2 分科会会場

2 階

4-1 朝学習
4-2 公開授業
4-1 分科会会場

1 階

なかよし（特別支援）
公開授業
分科会会場

3 階

5-2 朝学習
5-2 分科会会場

2 階

3-1 朝学習
3-2 公開授業
3-1 分科会会場

3 階

音楽室
5年 公開授業

北館

西館

南館

講堂

受付

校内では、スリッパにお履き替えください。
講堂前と多目的室前の靴箱をご利用ください。

2 階

2-1 公開授業
2-2 分科会会場

学習園

参観者の皆さまへ

本日は、本校の公開授業にお越しいただき、ありがとうございます。

参観にあたって、次の点にご留意ください。

1. 授業も含めて、**校内の写真撮影・ビデオ撮影**は、次の点をお守りいただくことを前提に許可します。
 - 子どもの顔は、なるべく撮らないようにしてください。
 - フラッシュは使用しないでください。
 - 撮影した写真や動画は、個人または、所属する機関での研究目的にのみ使用してください。
 - 子どもや教職員が特定できる写真や動画を、ネット上にアップしないこと。これについては、いかなる理由があっても許可できません。
 - 授業風景を動画配信サイトなどにアップしないこと。
 - 教室内の作品についても、個人が特定される原因となりますので、同じ扱いとさせていただきます。

※ 撮影された被写体に係る肖像権に関しては、本人並びに本校に属しております。注意事項に反し、または非社会的な目的に利用された場合は、法的な手段により取り下げを要求します。
2. 授業中にむやみに子どもに接近するなど、子どもの注意力を阻害するような行動はお控えください。
3. 教室はたいへん混み合います。入口付近に固まらず奥にお進みください。
4. 携帯電話、スマートフォンはマナーモードにしてください。
また、「Bluetooth」「Wi-Fi」機能をオフにしてください。
5. 授業中、ICT 機器などが動作不良になった場合、指導者の判断で使用を中止し、授業をすすめる等もありますので、ご理解ください。
6. 休み時間等では、子ども達の動線にお心遣いください。

ようこそ 阿倍野小学校 ICT 公開授業へ

向夏の候、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、本校では、平成25・26年度大阪市教育局「学校教育ICT活用事業」モデル校の指定を受け、「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」を研究主題に、ICT活用による教育的効果の検証に取り組んできました。本日、公開授業を開催しましたところ、ご参会いただきありがとうございました。ここに謹んでお礼申し上げます。ICT活用と指導の更なる充実を図るべく、皆様からご教示いただいたことを生かしまして、さらに研究を積み重ねていく所存でございます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大阪市立阿倍野小学校長 民辻 善昭

【朝 学 習】 (8 : 30～45) 「iPad を使った朝学習」を公開します。

【全体会Ⅰ】 (9 : 00～30) 公開授業のポイントを紹介します。

【公開授業】 (9 : 45～10 : 30)

○ 基本使いの授業・・・ICT機器の基本的な機能を活用した授業

場 所	学年教科等	単 元 ・ 内 容	授 業 者	使用ICT機器	頁
4-2	4年社会	安全な暮らしを守る	西本 良太	電子黒板 iPad	13

○ 応用使いの授業・・・自作のICT教材やアプリを活用した授業

場 所	学年教科等	単 元 ・ 内 容	授 業 者	使用ICT機器	頁
2-1	2年国語	おすすめの話 しょうかいしよう	小澤 里美	電子黒板 iPad 書画カメラ	5
3-2	3年算数	ぼうグラフ	大脇 忠浩	電子黒板 iPad	9
音楽室	5年音楽	いろいろなひびきを 味わおう	西窪 華代	電子黒板 iPad	17
6-1	6年総合	情報モラル ハンドブックをつくろう	別所 英文	電子黒板 iPad	21
なかよし	特別支援 (6年算数)	分数の大きさを 比べよう	吉川 達也	iPad	25

【分 科 会】 (10 : 45～11 : 30)

分 科 会	会 場	内 容		
2 年	2年2組	・ 本時のICT活用 のポイント説明 ・ 質疑・意見交流	体験 コー ナー	iPad (ロイロノートなど)
3 年	3年1組			iPad (Note Anytime など)
4 年	4年1組			iPad (SKYMENU など)
5 年	5年2組			iPad (Note Anytime など)
6 年	6年2組			iPad (ロイロノートなど)
特別支援	なかよし			iPad mini (Keynote など)

【全体会Ⅱ】 (11 : 45～12 : 30 於：講堂)

指導助言 大阪教育大学教授 木原 俊行 先生

研究の概要

1. 今年度の研究主題と主題設定について

研究主題 「ともに学び合い、学びを深める子どもの育成」 —ICTを活用して、教育の質を高めよう—

本校の目指す子ども像＝「主体的に問題に取り組み、協働的な学びを通して、自分の考えをしっかりと持ち、それを豊かに伝える子ども」

上述のような子どもを育成するために、以下の研究仮説を設定する。

＜研究仮説＞

- ① 問題解決的な学習活動の各段階で、効果的、効率的に ICT を活用して学習活動の充実を図ることにより、子どもの問題解決活動がより主体的になり、協働的な学びを深め、表現力を高めることができる。
- ② 授業以外の多様な学校生活の場面で ICT を活用することにより、基礎的な学力の向上や、子どものさまざまな学びの過程の記録に寄与し、学びの質を高めることができる。
- ③ 指導者が ICT を効果的に活用するスキルを高めたり、ICT に関する機器や人材、運用上の約束事を整備したりすることにより、上記2点の仮説を基に効果的に研究を進めることができる。

上述の研究仮説を受けて、以下の4つの研究の視点を設定する。

＜研究の視点＞

- ICTを活用した授業づくり
 - ・問題解決的な学習の中のどの場面で ICT を活用し、どのような効果を狙うか
 - ・教科の特性に応じて、どのような ICT 活用ができるか
 - ・ICT の新たな活用法を模索する提案型授業と、ICT の「普段使い」に特化した授業を並立して発信
- 授業以外での ICT の活用
 - ・どんな場面(朝、家庭学習、校外活動…)で、どのように活用できるか
 - ・家庭へ持ち帰っての ICT 活用の模索
- 教員の ICT 研修
 - ・いつ(定期的、適宜、長期休業時…)、どこで(校内、他校、他施設…)、だれが、どのように進めていくか
- 情報活用能力の育成
 - ・情報モラルを含めた、広い意味での情報活用能力を高めるための方策を模索

2. 研究の組織について



- ・上記とは別に、教職員全体で共通理解を図る特別委員会として、研究推進委員会(研究部・学年主任・特別支援教育コーディネーター・習熟度担当(1名))と研究全体会(全教職員)を設置する。

3. 研究の内容について

＜ICTを活用した授業づくりの基本的考え方＞

○ 問題解決的な学習の流れ

子どもの主体的な学びを実現するために、単元構成や授業の学習過程において、問題解決的な学習の流れに沿って構成することを基本とする。導入：「学習問題の設定」＝展開：「学習問題の追究～解決」＝終末：「学習問題の結論の吟味」の3段階を基本的な流れとする。

○ ICT活用のねらい

問題解決的な学習の3段階の流れの中の、「どの段階」で「どんな力」をつけさせたいかを考え、そのために有効なICTの活用法を模索する。

○ 教科の特性に応じたICTの活用

各教科のもつ特性をより活かしたり、特性に合わせたりする形でのICTの活用を工夫する。例えば、体育や音楽、図画工作など、体験的活動が不可欠な教科では、ICTの活用によって、より良い活動のイメージが持てるようにする、理科や社会科など事象について働きかけ、考える教科では、ICTの活用によって、事象をより具体的に把握したり、調べやすくしたりする、など、指導計画を立てる段階から、教科ごとの特性に応じたICTの活用法を模索する。

【問題解決的な学習の基本的流れ】

【ICTを活用する主なねらい（例）】

導入

①学習問題を設定する場面

- ・学習問題に気づく
- ・学習問題に対して予想する
- ・予想を確かめる方法を考える

展開

②学習問題を追究～解決する場面

- ・必要な資料を収集し、分析する
- ・実験や観察、調査などに取り組む
- ・明らかになったことを整理する

終末

③学習問題の結論を吟味する場面

- ・個々が解決したことを発表し合う
- ・学習問題に対する考えをまとめる
- ・残された課題を明確にする
- ・実践化を図ったり、別の事象にあてはめたりする

○疑問や驚きなどから問題意識を高め、問いを内発させることができる

○学習問題を探求しようとする関心・意欲を高めることができる

○学習問題に主体的・意欲的に取り組むことができる

○協働的な学びを深めることができる

○追究活動を効率的に進めることができる

○学習内容をより深く定着させることができる

○表現力を高めることができる

○プレゼンテーション能力を養うことができる

◎ 授業におけるICT機器活用パターン

（基本使い）…通常授業の中の一部で（主として指導者が）ICT機器の特性を活用するような授業。ICT機器があることで、授業の効率化や明確化を図る等の有用性を示すことができる授業。

（応用使い）…指導者がICTを用いて教材を作成したり、子どもが積極的にアプリを使って問題解決を行ったりするような授業。ICT機器があることによって成立する授業形態。

第2学年 国語科 学習指導案

授業者 小澤 里美

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 □一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	□導 入 ■展 開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児 童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	□資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる ■グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活 用 機 器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) ■その他（ 書画カメラ ）
活用コンテンツ等	○ロイロノート
ICT 活用のポイント	○ おすすめの話を紹介するために必要な挿絵の選択、拡大、提示の順序の工夫を簡単に行うことができるため、挿絵を効果的に使って、おすすめの話を紹介することができる。

1 学年・組 第2学年1組 計29名

2 場 所 2年1組教室

3 単 元 名 「ばめんに気をつけて読もう」（お手紙）

4 目 標

- 場面ごとに人物の行動や会話に着目し、そのときの気持ちを考えながら読むことができる。
- 文章と挿絵を関連させて読んだり、場面と場面を比べ、違いを考えたりしながら読むことができる。
- お話を紹介するために、進んで読み取ったり、友だちと感想を交流したりすることができる。
- 挿絵を効果的に使って、おすすめのお話の内容を伝えることができる。

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読 む 能 力	言語についての知識・理解・技能
登場人物の気持ちの移り変わりや心の触れ合いに関心をもとうとしている。 自分の選んだお話の特徴に気づき選んだ作品に対する思いが伝わるように、お話の楽しさを共有しながら紹介しようとしている。	自分の好きな場面の様子について、登場人物の行動や会話に着目して想像を広げて読んでいる。 物語の中の好きなところについて、自分の知識や経験、読書体験とを結び付けて紹介している。	言葉には、語句による意味のまとまりがあることに気づいている。

6 指導計画（全12時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「お手紙」を通読し、内容の大体をとらえる。 ・初発の感想を交流し、学習の見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板でデジタル教科書を提示し、デジタル教科書の本文音読を活用することで、物語の場面をイメージしやすくする。

2	2 3	<ul style="list-style-type: none"> 場面分けについて知り、5つの場面の分かれ目を確認する。 5つの場面ごとに、場所、登場人物、したことを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板にデジタル教科書を提示し、場面の分かれ目を示すことで、確認しやすくなる。 書画カメラで、電子黒板にワークシートを提示し、子どもと一緒に記入することで、より理解を深めやすくする。
3	4 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 手紙が来なくて悲しい気持ちになっている二人の気持ちを考える。(第1場面) ふてくされて寝ているがまくんと、それを励ますかえるくんの気持ちを考える。(第2・第3場面) 手紙を書いたことを言ってしまうかえるくんと、それを聞いたがまくんの気持ちを考える。(第4場面) 幸せな気持ちで手紙を待っている二人の気持ちを考える。(第5場面) 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板に本文を提示しながら、気持ちが分かる言葉にサイドラインを引くことで、登場人物の気持ちについて学級全体で共有して考えることができる。 電子黒板に、挿絵のみを提示することで、登場人物の表情の変化について、学級全体で話し合うことができる。
4	8 9 10 11 (本時) 12	<ul style="list-style-type: none"> がまくんとかえるくんの他のシリーズ作品を読む。 お勤めのお話を決め、紹介する方法を考える。 紹介するための原稿やスライド、道具などを作り、練習する。(本時) おすすめのお話を紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ロイロノートを活用することで、簡単にスライドができ、挿絵をスライドにして大きく提示することで、学級全体で共有できる。

※参考：アーノルド・ローベル 作、三木卓 訳、「ふたりはともだち」「ふたりはいつも」「ふたりはきょうも」「ふたりはいっしょ」

文化出版局、1972年

7 本時の学習

(1) 目 標

○おすすめのお話の内容が伝わるように、挿絵を効果的に使ってまとめることができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 前時までの振り返りをし、本時のめあてを知る。 ・友だちが、「ぜひ読んでみたい」と思うようなお話の紹介を考えるということを確認する。			【国語への関心・意欲・態度】 ・紹介することに関心を持ち意欲的に学習に取り組んでいる。 (態度・発言)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友だちにおすすめのお話をしようかいするじゅんぴをしよう</div> ○ 本時の活動の内容を確認する。			
展 開	○ 前時でつくったスライドの流れを確認しながら、紹介の準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> 挿絵をスライドにすることで、学級全体にわかりやすく、大きく提示することができる。 ロイロノートでスライドを作ることで、班ごとで確認しやすくなる。 	電子黒板 iPad(指・児) ・ロイロノート 書画カメラ	【読む能力】 ・友情に関わる内容を読み取っている。 (行動・発言 ロイロノート)

	○ 道具を使う班は、作成する。 ○ 練習する。			
ま と め	○ 振り返りをする。 ・できた班の、スライドの一部を紹介する。 ○ 次時の学習内容を知る。	・できた班のスライドを見ることで、工夫しているところを共有することができる。	電子黒板 iPad(指・児) ・ロイロノート 書画カメラ	

(3) 板書計画

<div style="border: 1px solid black; height: 150px; width: 100%;"></div> <div style="position: absolute; right: 10px; top: 50%; transform: translateY(-50%);">電子黒板</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">じゅんじょ</div> <p>友だちにおすすめのお話を しょうかいするじゅんびをしよう</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スライドをつくる ② げんこうをかんがえる ③ 小どつぐをつくる ④ れんしゅうする
--	---

第3学年 算数科 学習指導案

授業者 大脇 忠浩

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 ■一斉学習 □グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導 入 ■展 開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児 童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 ■学習内容を調べる □自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他(書画カメラ)
活用コンテンツ等	○ SKYMENU ○ Power Point ○ Note Anytime 自作教材
ICT 活用のポイント	○ Note Anytime でグラフ操作をすることで体験的に「ぼうグラフ」の概念やよさについて気づくことができる。 ○ 電子黒板を用いることで、表とグラフの特徴について考えを深めることができる。

1 学年・組 第3学年2組 計27名

2 場 所 3年2組教室

3 単 元 名 「ぼうグラフ」

4 目 標

- 資料を分類整理して、表（1次元、2次元の表）にまとめることができる。
- 表の意味を理解し、表に表したり、それをよんだりすることができる。
- 資料を分類整理して、棒グラフに表すことができる。
- 表や棒グラフから、資料の特徴を考察できる。

5 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な考え方	技 能	知識 ・ 理解
資料を分類整理して、表や棒グラフに表したりよんだりしようとしている。 棒グラフと表を比較し、グラフに表すよさを見つけようとしている。	落ちや重なりのない分類整理の仕方をくふうしている。	資料を表や棒グラフを用いて表したり、それをよんだりすることができる。	資料を目的に応じて分類整理する仕方を理解している。 表や棒グラフのよみ方やかき方を理解している。

6 指導計画（全11時間）

次 時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1 ・事象をくふうして記録し、整理する方法を考える。	・電子黒板で資料を掲示することで、課題の共通理解を図り、目的を意識した分類整理の方法を考えることができる。
	2 ・表にまとめて整理する方法を知る。	・電子黒板で前時に正の字で表した資料を掲示することで、前時の学習内容を容易に想起できるようにする。

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表と比べて、棒グラフにはどんな特徴があるか話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一目で多い少ないがわかることを理解する。 ○ 確かめの問題をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の表とグラフを並べて映し出すことで、表とグラフそれぞれの特徴や良さを比較することができる。 	電子黒板 ・ Power Point	【関】 ・ 棒グラフに表すよさを見つけてようとしている。 (行動観察・記録分析)
-----	--	---	-----------------------	--

(3) 板書計画

くだもの	人数(人)
さくらんぼ	5
みかん	9
もも	6
ぶどう	3
その他	4
合計	27

ぼうグラフ

ぼうグラフについて調べよう。

- ぼうグラフにも表題をつける。
- 1めもり… 1人

<わかること>

- すきな人の数は みかんが1番多い。
- ももとぶどうではももが好きな人のほうが3人多い。

<まとめ>

グラフに表すと、多い少ないが一目でわかる。

第4学年 社会科 学習指導案

授業者 西本 良太

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 □一斉学習 ■グループ学習 ■個別学習
ICT 活用の場面	■導入 ■展開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) ■資料の提示(学習者) ■自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる ■他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) □プレゼンテーション等の作成
活用機器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ SKYMENU ○ 写真ファイル
ICT 活用のポイント	○ 電子黒板で資料を提示することにより、学習課題を明確にできる。 ○ タブレットを家に持ち帰って調べたことを写真で記録することができる。 ○ 一人一人がインターネットで調べ学習をすることができる。

1 学年・組 第4学年2組 計29名

2 場 所 4年2組教室

3 単 元 名 「火災をふせぐ」

4 目 標

- 火災の予防や発生時の備えに努めている消防署や関係機関について、資料を活用して意欲的に調べることができる。
- 関係機関が地域と協力して火災の防止に努めていることや、関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることについて理解することができる。
- 関係機関に従事している人びとや地域の人びとの努力や家庭の工夫を考えることができる。

5 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての知識・ 理解
地域社会における災害から人々の安全を守る工夫や努力に関心をもち、意欲的に調べている。 地域社会の一員として人々の安全を守るための活動に努力しようとしている。	地域社会における災害から人々の安全を守る工夫や努力について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 安全を守るための関係機関の働きや地域の人々の工夫や努力を地域の人々の生活と関連付けて考え適切に表現している。	消防署の施設・設備などを観点に基づいて調査したり、資料を活用したりして、地域社会における災害の防止のための諸活動の様子について必要な情報を集め、読み取っている。 調べたことを新聞にまとめている。 家庭での防火の取り組みを写真におさめることができる。	関係機関は地域の人々と協力して、災害の防止に努めていることを理解している。 関係の諸機関が相互に連携して、緊急に対処する体制をとっていることを理解している。 人々の安全を守るための関係機関の働きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を理解している。 家庭での防火の取り組みの写真をもとに、防火の大切さを理解することができる。

6 指導計画（全10時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1	・学校には、消防設備がどこにどれだけあるか調べてまとめる。	・電子黒板を活用して、資料を提示すること学習課題を明確にする。
2	2	・大阪市で起きている火災の原因や被害を調べる。	・電子黒板を活用して、火災に関する3つのグラフを提示することにより、火災の原因や被害を視覚的にとらえるようにする。
3	3 4	・消防署で働いている人たちはどんなことしているのか調べる。	・iBook リンク集を活用して、消防署について調べる。
4	5	・火災を防ぐためにどのような取り組みをしているのか調べることができる。	・SKYMENU のブラウザを活用して、火災を防ぐための取り組みについて調べる。
5	6	・119番通報は、どんな仕組みになっているのか調べる。	・電子黒板を活用して、資料映像を iPad で一人一人視聴し、指令情報センターの様子を確認する。
6	7	・地域ではどんな取り組みが行われているのか調べる。	・SKYMENU のブラウザを活用して、地域での防火の取り組みについて調べる。
	8 (本時)	・家庭や自分たちにできる防火の取り組みについて考える。	・SKYMENU を活用して、家庭での防火の取り組みについて調べ、写真をもとに自分の考えを書く。
7	9 10	・学習したことや自分たちにできることを新聞にまとめる。	・SKYMENU を活用して、これまでの資料を提示し新聞にまとめる。

7 本時の学習

(1) 目 標

- 家庭での防火の取り組みについてタブレットを使って調べ、家庭での防火や消火活動の大切さを理解できるようにする。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 前時に提示した家庭での防火の取り組みの写真について話し合う。	・前時の学習資料を提示し本時の学習内容をつかむ。	電子黒板 ・デジタル教科書 ・SKYMENU	【関心・意欲・態度】 ・本時の学習問題について意欲的に考えようとしている。 (行動・発言)
	家庭での火災を防ぐ取り組みについて考えよう			
展 開	○ 家庭で撮影してきた防火の取り組みの写真をもとにグループで話し合う。	・防火の取り組みの写真を紹介し合うことで、工夫を視覚的にとらえられることができる。	電子黒板 iPad ・SKYMENU ・写真ファイル	【思考・表現】 ・防火の取り組みの写真をもとに説明することができる。

	○ 家庭で撮影してきた防火の取り組みの写真をもとに工夫の目的を考える。	・ 防火の取り組みの写真を電子黒板に提示し視覚的にとらえることによって、活発な交流ができる。		(グループ発表)
まとめ	○ 家庭でもできる防火の取り組みについてまとめる。	・ 児童の考えにあった写真を電子黒板に提示することで視覚的に理解することができる。	電子黒板 iPad ・ SKYMENU	【知識・理解】 ・ 写真をもとに家庭での防火の取り組みについて理解することができる。(発言)
				【思考・判断・表現】 ・ 家庭でできる工夫を分けることができる。(発言)

(3) 板書計画

防火のために家庭でできることには、どんなことがあるのだろうか

電子黒板

◎ 家庭での工夫

- ・ たこ足配線をしない
- ・ 火災けい報機
- ・ マッチ、ライターの保管
- ・ 消火器
- ・ ホコリをためない
- ・ ライター
- ・ コンロのまわりに何も置かない など

まとめ

- ・ 火事を起こさない工夫
- ・ 火事を消すための工夫
- ・ 火事を知らせる工夫

第5学年 音楽科 学習指導案

授業者 西窪 華代

《ICT の活用》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input type="checkbox"/> 一斉学習 <input checked="" type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT 活用の場面	<input type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input checked="" type="checkbox"/> まとめ
ICT 活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT 活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input checked="" type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input checked="" type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input checked="" type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末(iPad) <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末(iPad) <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用コンテンツ等	<input type="checkbox"/> SKYMENU <input type="checkbox"/> Keynote <input type="checkbox"/> Note Anytime
ICT 活用のポイント	<input type="checkbox"/> 鑑賞曲をタブレットを使って個人で聴くことにより、好きな部分を繰り返し聴いたり、一時停止したりすることができることにより追究心を高められる。 <input type="checkbox"/> 場所を選ばず聴くことができるので、個人や少人数で落ち着いて取り組むことができ、学習意欲が高まる。 <input type="checkbox"/> ワークシートを使って、自分と友達との考えを共有したり、比較したりすることができる。

1 学年・組 第5学年1組 計32名

2 場 所 音楽室

3 単 元 名 「いろいろなひびきを味わおう」

4 目 標

○ 歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりすることができる。

○ 音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きのバランスに気を付けながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができる。

5 単元の評価規準

ア. 音楽への 関心・意欲・態度	イ. 音楽表現の創意工夫	ウ. 音楽表現の技能	エ. 鑑賞の能力
声や音が重なり合う美しい響きを求めて表現したり聴いたりする学習に取り組もうとしている。	旋律の重なり方の違いが生み出す響きのよさを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫している。	旋律の重なり方や拍子の特徴を生かして、表情豊かに歌ったり楽器を演奏したりしている。	いろいろな楽器の音が重なり合う響きの違いや、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。

6 指導計画（全8時間）

次	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1 •「いつでもあの海は」の曲全体の感じをつかんで歌う。 2 •旋律の重なり方の特徴を捉え、表現を工夫する。	•下のパートをタブレットに録音することにより、場所を選ばずパート練習ができる。

		<ul style="list-style-type: none"> 全体の構成を考えて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットで自分たちの演奏を録画して振り返り、練習に活用できる。
2	3	<ul style="list-style-type: none"> 「リボンのおどり」の曲全体をつかみ、各パートの特徴をつかむ。 	
	4	<ul style="list-style-type: none"> ハ音譜表の読み方を知る。 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> 楽器を選んで演奏する。 	
3	6	<ul style="list-style-type: none"> 「双頭のわしの旗の下に」と「アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章」の楽器編成の違いを見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> Keynoteの提示資料により、フラッシュカードの感覚で楽器の名前や特徴を覚えられるようにする。
	7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 個別に鑑賞曲を聴き、響きの違いを感じ取り、グループ内の着眼点が同じ子ども同士がペアで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人で自由に曲を進めたり止めたりできるとして、集中して鑑賞に取り組める。
	8	<ul style="list-style-type: none"> 他のグループの同じ事を調べた子どもと交流し、お互いの意見をまとめる。 グループに持ち帰って情報を伝え合い、鑑賞曲の音の重なりについて共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 場所を選ばずに鑑賞曲を聴けることで、落ち着いて話し合いができる。

7 本時の学習

(1) 目 標

- いろいろな音が重なり合うひびきを味わうことができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	<ul style="list-style-type: none"> 既習曲「いつでもあの海は」を歌う。 本時のめあてをつかむ。 			【音楽表現の技能】 <ul style="list-style-type: none"> お互いのパートの音を聴くことができる。 (演奏聴取)
展 開	めあて いろいろな音が重なり合うひびきを味わおう			
	<ul style="list-style-type: none"> 「双頭のわしの旗の下に」の楽器の構成について復習をする。 電子黒板に提示されている楽器の名前を言う。 鑑賞曲の後半部分を聴き、ワークシートに書く。 自分が注目して聴くこと(主旋律、伴奏部分、低音部分、打楽器部分)をワークシ 	<ul style="list-style-type: none"> 楽器紹介の資料を電子黒板に投影することで、視覚的、聴覚的に楽器の特徴を捉えることができる。 タブレットで一人一人が自由に鑑賞曲を聴けることで、集中して聴くことができる。 	電子黒板 iPad(指) • Keynote iPad(児) • SKYMENU • NoteAnytime	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> 管楽器や弦楽器に関心・意欲を示している。 (発言内容・行動観察)

	<p>トに書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ内で、同じ部分に注目して聴いている同士で意見をまとめる。 <p>○ 他のグループの同じ部分を聴いている子どもと交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主旋律、伴奏部分、低音部分、打楽器部分のグループに分かれ、それぞれのワークシートを見せ合い、比較して情報を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENUの画像比較で、お互いのワークシートを並べ、感じ取ったことを共有でき、話し合いを深めるようにする。 タブレットを活用することで、場所を選ばず鑑賞曲を聴くことができ、数か所に分かれて少人数で落ち着いて話し合いができるようにする。 		<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を友達に伝えることができる。 <p>(発言内容・行動観察)</p>
まとめ	<p>○ 自分のグループに交流した情報を持ち帰り、深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他のグループと共有した情報を、グループ内で発表し、鑑賞曲の音の重なりについて深める。 <p>○ 一斉で鑑賞曲を聴き、鑑賞曲の音の重なりについて確認し、自分たちの演奏に活用できるように考える。</p>		<p>iPad(児)</p> <ul style="list-style-type: none"> SKYMENU NoteAnytime 	<p>【鑑賞の能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他のグループとの交流内容を伝えることができる。 <p>(発言内容・行動観察)</p>

(3) 板書計画

㊦ いろいろな音が重なり合うひびきを味わおう。

鑑賞する曲 「双頭のわしの旗の下に」
 作曲者 J.F.ワーグナー
 演奏形態 吹奏楽合奏

④ 主 旋 律 ⑤ 伴 奏

③ 低 い 音 ⑥ 打 楽 器

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

授業者 別所 英文

《ICT の活用》

授業の場所	■普通教室 □特別教室 □体育館 □運動場 □その他（ ）
授業形態	□講義形式 □一斉学習 ■グループ学習 □個別学習
ICT 活用の場面	■導 入 ■展 開 ■まとめ
ICT 活用者	■指導者 ■児 童 □その他（ ）
ICT 活用の目的	■資料の提示(指導者) □資料の提示(学習者) □自分の考えをまとめる □グループの考えをまとめる □他者との考えの比較・交流 □学習内容を調べる ■自分の考えを表現する □学習の振り返り □記録(写真・動画等) ■プレゼンテーション等の作成
活 用 機 器	■電子黒板 ■指導者用タブレット端末(iPad) ■児童用タブレット端末(iPad) □その他（ ）
活用コンテンツ等	○ Keynote ○ ロイロノート ○ SKYMENU
ICT 活用のポイント	○ 情報モラルのそれぞれのポイントについて、問題場面をスライドにしてストーリー化し、守るべきポイントを文章化して加えることで、誰もが興味を持って読めるハンドブックをつくるようにする。 ○ お互いのハンドブックの中で気づいた場面にマーキング機能を使ってアドバイスを送ることで、よりわかりやすく、より伝わりやすいハンドブックになるようにする。

1 学年・組 第6学年1組 計29名

2 場 所 6年1組教室

3 単 元 名 「情報モラルハンドブックをつくろう」

4 目 標

- 情報社会におけるルールやマナーがあることを理解し、それらを守ろうとすることができる。
- 自他の権利を尊重し、他人や社会への影響を考えて行動することができる。
- 危険な情報や不適切な情報から、身を守る方法と態度が必要なことに気づくことができる。
- ID やパスワードの保護、不正使用・不正アクセスの防止について理解することができる。
- 友だちと協力してハンドブックを作る中で、自分で考え判断する力を高めることができる。

5 単元の評価規準

よりよく問題を解決する資質や能力【資】	学び方・考え方【学】	主体的、創造的、協同的に取り組む態度【態】	自己の生き方【自】
学習活動に対する見通しをもち、解決の計画を立てることができる。	情報モラルについて必要な情報を収集し、まとめることができる。 情報モラルについて調べたことを作品に表現できる。	課題意識・目的意識をもって、主体的に、粘り強く、解決活動や探究活動に取り組むことができる。 友だちと協力して、解決活動に取り組むことができる。	情報社会のルールやマナーについて理解し、自分たちの生活に生かすことができる。 他の人の考え方を認めたり自分に取り入れようとしたりすることができる。

6 指導計画（全 12時間）

次	時	主 な 学 習 活 動	I C T活用のポイント
1	1 2	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルについて調べ、「人をいやな気持ちにさせないために」、「自分が被害にあわないために」の2つの観点から、ポイントをワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットの利用に関する意識調査を行い、日常生活の中で自分たちが正しいと思っていることの中にも間違いがあることに気づかせ、正しい知識をつけるために「ネット社会の歩き方」で学習することを知らせる。 「ネット社会の歩き方」を活用し、それぞれの場面のアニメーションを見て、子ども一人一人が大切なポイントをつかめるようにする。
	3	<ul style="list-style-type: none"> 調べたポイントを全体で確認する。 情報モラルについて、ハンドブックを作成することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人がまとめたポイントを電子黒板上にて提示し全体で確認することで、全員が大切なポイントをきちんとつかめるようにする。
2	4 5	<ul style="list-style-type: none"> 学級全体で項目を決め、グループでハンドブックの構成（問題場面・守るべきポイント）を考える。 【マナー、著作権、個人情報、不正アクセス、有害情報、ネット依存】 	
	6 7 8 (本時) 9	<ul style="list-style-type: none"> 構成に基づいて、ハンドブックを作成する。 グループ間で交流し、よりよいハンドブックになるようにアドバイスを送る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面を作成するための写真やイラストなど素材を用意し、ロイロノートを活用して問題場面のストーリー（動画）を作成し、読み手の興味を引けるようにする。 Keynote を使い、完成した問題場面のスライドと問題場面に対しての大切なポイントを文章化してハンドブックを完成させ、iPad 上で誰でも読めるようにする。 SKYMENU のフォルダに作成したハンドブックを保存し、他のグループのハンドブックを見て、気づいた点をスクリーンショットにマーキングをしてアドバイスを送り、よりわかりやすく、より伝わりやすいハンドブックにする。
	10	<ul style="list-style-type: none"> みんなからもらったアドバイスを参考にし、ハンドブックを修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENU のフォルダに送られたアドバイスについてグループのメンバーで話し合い、よりよいものになるようにする。
	11	<ul style="list-style-type: none"> 完成したハンドブックを全体で交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> SKYMENU のフォルダに作成したハンドブックを保存し、他のグループのハンドブックを見て、それぞれの情報モラルについてかんがえるとともに、他のグループの工夫点などについて認め合えるようにする。
4	12	<ul style="list-style-type: none"> 全校児童に紹介するための準備をする。 	
	(集会時)	<ul style="list-style-type: none"> 全校集会でハンドブックの紹介をする。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクター、Apple TV を活用し、大画面に提示することで、自分たちが作成したハンドブックのよさを全校児童に伝えられるようにする

7 本時の学習

(1) 目 標

- 情報モラルについて調べたことを、自分たちが考えた構成に基づいてハンドブックに表現することができる。

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 学習課題をつかむ。			
	『情報モラルハンドブック』を完成させよう			
展 開	○ 前時に引き続き、ハンドブックを作成することを確認する。 ・問題場面のストーリー作成 ・大切なポイントの文章化	・前時までに作成した問題場面をいくつか紹介することで、活動の目的を再確認させる。	電子黒板 iPad（指）	
	○ 問題場面に対する大切なポイントを文章化していく。 ○ 自分たちのグループが伝えたい項目についてのハンドブック（問題場面、大切なポイント）を完成させる。 ・マナー ・著作権 ・個人情報 ・不正アクセス ・有害情報 ・ネット依存	・完成した問題場面のストーリーに対して大切なポイントの文章の説明を入れ、ハンドブックを作成させ、iPad 上で誰でも読めるようにする。 ・完成した問題場面のスライドと問題場面に対しての大切なポイントを班で見直して、よりわかりやすいハンドブックを作らせるようにする。	iPad（児） ・Keynote iPad（児） ・Keynote ・ロイロノート ・SKYMENU	【態】 ・友だちと協力して、ハンドブック作りに取り組んでいる。 （行動・態度） 【学】 ・自分たちが調べたことを、構成に基づいて表現している。 （Keynote）
ま と め	○ 各グループが作成したハンドブックをお互いに読み合い、情報モラルの大切なポイントと照らし合わせて、気づいたことに対してアドバイスを送る。	・SKYMENU のフォルダに作成したハンドブックを保存し、お互いに読み合えるようにする。 ・気づいた点をスクリーンショットして、マーキングでアドバイスを加え、よりわかりやすく、より伝わりやすいハンドブックになるようにする。	iPad（児） ・SKYMENU	【自】 ・自分たちの生活の中にある問題に気づいている。 （マーキングの内容）

(3) 板書計画

めあて 『情報モラルハンドブック』を完成させよう

チェック項目

☆何が問題かわかるか。

☆大切なポイントは伝わるか。

☆時間は適当か。

計画

- ① 大切なポイントを入力する
- ② ハンドブックを見直す（修正）
- ③ 完成したものを保存
SKYMENU→6年→情報モラル→班のフォルダ
- ④ それぞれの班のハンドブックにアドバイス
SKYMENU 班のフォルダ →Keynote→
キャプチャー→SKYMENU マーキング→班のフォルダ

なかよし学級 算数科 学習指導案

授業者 吉川 達也

《ICT の活用》

授業の場所	<input type="checkbox"/> 普通教室 <input checked="" type="checkbox"/> 特別教室 <input type="checkbox"/> 体育館 <input type="checkbox"/> 運動場 <input type="checkbox"/> その他（ ）
授業形態	<input type="checkbox"/> 講義形式 <input type="checkbox"/> 一斉学習 <input type="checkbox"/> グループ学習 <input checked="" type="checkbox"/> 個別学習
ICT 活用の場面	<input checked="" type="checkbox"/> 導入 <input checked="" type="checkbox"/> 展開 <input type="checkbox"/> まとめ
ICT 活用者	<input checked="" type="checkbox"/> 指導者 <input checked="" type="checkbox"/> 児童 <input type="checkbox"/> その他（ ）
ICT 活用の目的	<input checked="" type="checkbox"/> 資料の提示(指導者) <input type="checkbox"/> 資料の提示(学習者) <input type="checkbox"/> 自分の考えをまとめる <input type="checkbox"/> グループの考えをまとめる <input type="checkbox"/> 他者との考えの比較・交流 <input type="checkbox"/> 学習内容を調べる <input type="checkbox"/> 自分の考えを表現する <input checked="" type="checkbox"/> 学習の振り返り <input type="checkbox"/> 記録(写真・動画等) <input type="checkbox"/> プレゼンテーション等の作成
活用機器	<input type="checkbox"/> 電子黒板 <input checked="" type="checkbox"/> 指導者用タブレット端末(iPad) <input checked="" type="checkbox"/> 児童用タブレット端末(iPad) <input type="checkbox"/> その他（ ）
活用コンテンツ等	<input type="radio"/> Explain Everything <input type="radio"/> Keynote
ICT 活用のポイント	<input type="radio"/> 漢字の読みを確認した後、音読した音声を Explain Everything で録音し、正しく読めているか自分で確認をする。 <input type="radio"/> Explain Everything で作った資料を使うことで、前時までの授業を想起しやすくする。 <input type="radio"/> Keynote の資料を使って、視覚的にも実感をもつことができる。

1 学年・組 第6学年 1名

2 場 所 特別支援教室

3 単 元 名 「分数の大きさを比べよう」

4 目 標

- 分数の大小、相当の関係を調べ、分数のしくみを理解することができる。
- 等しい分数について調べ、理解することができる。

5 児童の実態と個別の目標

児童	児童の実態	個別の目標
A児(6年)	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の学習や語彙の習得が充分でないため、毎日少しずつ読み方の練習をしている ・整数の四則の計算はできるようになってきたが、分数や小数についての概念が育っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現学級での国語学習がスムーズに進められるように、当該学年の漢字を読むことができる。 ・分数のしくみや分数の大きさについて理解することができる。

6 指導計画(全6時間)

次	時	主 な 学 習 活 動	ICT活用のポイント
1	1	・分数の大きさの学習をふり返し、分数カードを作る。	・分数や小数についての概念が育っていないため、単元を通じて視覚的なサポートをしていきたい。学習探検ナビの「分数パネル」を使って、分数の大きさについて振り返り確認する。また、「分数パネル」を参考に、「分数カード」を手作りすることで、作業的な活動を行うことができる。
	2		
	3	・分数の大きさの比べ方を考える。	・1L マスに水を入れ、具体的に水の量を比較することで、量感を養うことができる。その場面をタブレットで記録することで、いつでもふり返ることができる。

	4 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 分数の大きさを比べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 分数の大きさを比較する際に、Keynote の資料を使い数直線をタブレット上に示すことで「大きさを比べる」課題に集中して取り組みやすくなる。また、数直線上で比べることにより、分数の大きさの比較を視覚的にイメージしやすくなる。
2	5	<ul style="list-style-type: none"> 等しい分数のつくり方を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習探検ナビの「分数パネル」で、比較することで、分母・分子の両方に同じ数をかけたり、わったりすると等しい大きさの分数になることに気づきやすくする。
	6	<ul style="list-style-type: none"> まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ大きさの分数について学習したことをタブレット上で振り返り、理解できたか確認することができる。

※毎時間最初の10分程度漢字の学習を行う。

7 本時の学習

(A) 国語（漢字の学習）

(1) 目 標

- 漢字の読み方を確認し、自分で確かめることで自信を持つことができる。(10分程度)

(2) 展 開

	主な学習活動	ICT活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 宿題に出ていた漢字の読みの確認をする。			【関心・意欲・態度】 ・学習してきたことを発表しようとしている。(行動)
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 漢字ドリルを見ながら漢字を読み、録音する。 ○ 録音した音声を聞きながら、読みがまっているか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Explain Everything の録音機能を使って自分の読みを確認することで、自信を持ちやすくする。 	iPad(児) ・ Explain Everything	【話す・聞く】 ・漢字の読みを正しく音読することができる。(行動) ・録音された音声を聞き、正しく読めているか確認することができる。(行動)
ま と め	○ 次時の漢字の読みの練習をする。			【読む】 ・意欲的に、新しい漢字の読みに取り組もうとしている(読む)

(B) 算数（分数の大きさを比べよう）

(1) 目 標

- 分数の大きさを比べることができる。（35分程度）

(2) 展 開

	主な学習活動	I C T 活用のポイント	使用機器・コンテンツ	評価の観点
導 入	○ 前時の学習をふり返る。 ○ 本時の課題を確認する。	・前時までに学習した内容を資料で確認し、想起しやすくする。	iPad(指) ・Explain Everything	
		分数の大きさを比べてみよう		
展 開	○ 分数のカードを使って分数の大きさ比べをする。 ・分母が等しく、分子が異なる分数の大きさを比べる。 ・分母が異なり、分子が同じ分数の大きさを比べる。 ・分母と分子が、それぞれ異なる分数の大きさを比べる。 ○ 分数の大きさをタブレット上の資料を使って比べる。 ・分数カードを使ったゲームで比較しにくかった分数をタブレット上で比較する。	・Keynote の資料を使うことにより視覚的に分数の大きさをイメージできるようにする。	iPad mini (児) ・Keynote	【関心・意欲・態度】 ・分数の大小比較に興味を持っている。（発言） 【数学的な考え方】 ・分数の大小の比べ方を考えている。（発言） 【技能】 ・分数の大きさを比べることができる。（行動）
ま と め	○ 本時の学習をまとめる。 ・「大きさ比べ」のゲームをし、比較方法を確認する。 ・同じ大きさになる分数を比較し、次時につなげる。			【知識・理解】 ・分数についての既習事項をふり返り、整理することができる。（行動）

(3) 板書計画

電子黒板	分数の大きさを比べてみよう			
	$\frac{3}{5}$	$\frac{4}{5}$	$\frac{2}{3}$	$\frac{2}{4}$
	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{4}$	$\frac{2}{3}$	$\frac{5}{6}$
